

第27回 文京区地域医療連携推進協議会在宅医療検討部会 兼  
第17回 文京区地域包括ケア推進委員会医療介護連携専門部会 要点記録

日 時：令和4年10月21日（金）午後1時30分から午後3時00分まで

場 所：第一委員会室

<会議次第>

- 1 部会長挨拶
- 2 報告事項・議事
  - (1) かかりつけ医・在宅療養相談窓口の実績について
  - (2) M C Sの利用実績について
  - (3) 知って安心「退院までの準備ガイドブック」の改訂について
  - (4) 新たなテーマについて
- 3 その他
- 4 閉会

<配布資料>

- 資料第1号 かかりつけ医・在宅療養相談窓口事業及び高齢者あんしん相談センター相談実績
- 資料第2号 多職種ネットワーク（M C S）の利用実績について
- 資料第3号 知って安心「退院までの準備ガイドブック」の改訂について
- 資料第4号 戦略点検シート（在宅医療・介護連携の推進）
- 参考資料1 文京樹地域医療連携推進協議会設置要綱
- 参考資料2 文京区地域包括ケア推進委員会設置要綱
- 参考資料3 文京区地域医療連携推進協議会在宅医療検討部会 兼  
文京区地域包括ケア推進委員会医療介護連携専門部会名簿
- 参考資料4 知って安心「退院までの準備ガイドブック」の見直しについて
- 参考資料5 文京区地域医療連携推進協議会 在宅医療検討部会での検討テーマについて（調査票①）
- 参考資料6 新型コロナウイルス感染症対応について（調査票②）

## 参考資料7 令和4年度在宅医療講演会の実施報告について

### <出席者>

田城孝雄部会長、久保雄一部会員、石川みずえ部会員、渡邊文秀部会員、藤田良治部会員、新井悟部会員、安部節美部会員、西奈緒部会員、宮本千恵美部会員、鈴木樹美部会員、片野恵部会員、黒川隆史部会員、中根綾子部会員、足達淑子部会員、岩井佳子部会員、小川原功部会員、名取芳子部会員、飯塚しのぶ部会員、森岡加奈絵部会員、佐々木慎児部会員、井関美加部会員、石垣泰則部会員

### <欠席者>

吉田勝俊部会員、上田由美子部会員

### <事務局>

宮部地域包括ケア推進担当課長

### <傍聴者>

0人

---

### 1 部会長挨拶

**田城部会長**：ただいまから第27回文京区地域医療連携推進協議会在宅医療検討部会兼第17回文京区地域包括ケア推進委員会医療介護連携専門部会を開催いたします。

本日新たに委員に就任された方が多数いらっしゃいますので、事務局からご報告をお願いします。ご紹介の後、皆さん一言ご挨拶をよろしく願いいたします。

**宮部地域包括ケア推進担当課長**：本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。事務局を務めます地域包括ケア推進担当課長の宮部と申します。本日はどうぞよろしく願いいたします。

それでは、部会員に変更がございましたので、名簿順に新部会委員の皆様をご紹介させていただきます。

一般社団法人東京都文京区小石川歯科医師会副会長・渡邊文秀部会員、一般社団法人文京区薬剤師会会長・新井悟部会員、東京新宿メディカルセンター脳神経内科部長・黒川隆史部会員、一般社団法人日本在宅医療連合学会代表理事・石垣泰則部会員、以上4名でございます。新井委員につきましては、オンラインでご出席いただいております。

なお、委嘱状につきましては、資料と一緒に座席に置かせていただきましたので、ご確認をお願いいたします。なお、オンライン参加の新井部会員におかれましては、資料と一緒にお送りさせていただきましたので、同じくご確認をお願いできればと存じます。

では、新部会員より一言ご挨拶をお願いいたします。まず渡邊部会員からお願いいたします。

**渡邊部会員：**渡邊文秀と申します。文京区小石川歯科医師会から参りました。とてもシンプルな会と思っていましたが、多くの方が参加されている非常に心強い会だと思います。よろしくをお願いいたします。

**宮部地域包括ケア推進担当課長：**ありがとうございます。

それでは、次に黒川部会員、お願いいたします。

**黒川部会員：**よろしくお願ひします。東京新宿メディカルセンターの脳神経内科の黒川と申します。9月から溝尾の後任となり、患者サポートセンターの副センター長として、私が実務面基本的に担当いたしますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。

**宮部地域包括ケア推進担当課長：**ありがとうございます。

それでは、次に石垣部会員お願いいたします。

**石垣部会員：**ご紹介ありがとうございます。日本在宅医療連合学会の代表理事を務めております石垣泰則と申します。実は2009年から本郷4丁目にある、在宅医療専門クリニックのコーラルクリニックで診療もしております。地域連携、在宅医療の領域におきましては連携が非常に重要で、こういった会を行政が主導して開催してくださるということはとても素晴らしいことだと考えております。微力ではございますけれども、お手伝いできればと思いますので、どうぞ

よろしくお願いを申し上げます。

**宮部地域包括ケア推進担当課長**：ありがとうございます。

それでは、新井部会員、お願いいたします。

**新井部会員**：文京区薬剤師会の新井でございます。今年度6月から会長になりまして、初めての参加とさせていただきます。かかりつけ在宅医療といろいろと薬剤師も関わっておりますので、皆様とお話を合わせながら、よりよい医療・介護に努めていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

**宮部地域包括ケア推進担当課長**：ありがとうございました。

新委員の紹介につきましては、以上でございます。

**田城部会長**：ありがとうございます。

それでは、新しく委員になられました渡邊部会員、黒川部会員、石垣部会員、それから新井部会員、よろしくお願いをいたします。

それでは、部会員の出席状況について、事務局よりお願いいたします。

**宮部地域包括ケア推進担当課長**：＜出欠状況報告、配布資料の確認＞

## 2 報告事項・議事

**田城部会長**：ありがとうございます。

それでは、次第2「報告事項・議事」に入ります。議事（1）かかりつけ医・在宅療養相談窓口事業の実績について、事務局より報告をお願いいたします。

**宮部地域包括ケア推進担当課長**：＜資料第1号の説明＞

それでは、名取部会員より相談事例のご報告をお願いします。

**名取部会員**：＜資料第1号の説明＞

**田城部会長**：ありがとうございました。

ただいまのご報告について、ご質問、ご意見はありますか。小石川医師会の久保部会員、医師会から何かコメントはありますか。

**久保部会員**：久保です。非常に幅広いジャンルからの問合せが相変わらずあるように感じました。特に転居したての方々は情報をお持ちでないので、こういう

窓口があるとすごく助けになるだろうなと思います。以上です。

**田城部会長**：久保部会員、ありがとうございました。

こちらの相談窓口はソーシャルワーカーではなく、看護師さんですよ。

**久保部会員**：看護師です。

**田城部会長**：ありがとうございます。

なお、4番のコロナ自宅療養中については、どのように対応されたか教えていただけますか。

**名取部会員**：コロナのピーク時にはかかりつけの先生がお休みでとか、こういった電話がありました。この方に関しては、まずオンライン診療で処方を希望されていましたが、陽性の診断を近医で受けているということでしたので、そのクリニックと連絡を取りまして、処方のご希望もあるということで連絡を取っていただくようにしました。

**田城部会長**：ありがとうございます。素晴らしい対応だと思います。

地域包括ケアシステムが機能している地域は、今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックの大混乱を無事に乗り切れていると言われていています。ですから、今回の新型コロナウイルス感染症の対応の善し悪しが、平時の地域包括ケアシステムの充実度のバロメーターになると言われておりますので、こういう相談窓口があって、機能しているということがうまくいっている証拠だと思います。

それから、入院中の方に関するご相談ですが、この2つの事例は、文京区内の病院ではなくて、文京区外の病院でしょうか。

**名取部会員**：申し訳ありません。入院先までは拾って来なかったんですが、この近辺の大学病院だと思います。

相談員というくくりで一緒にしてしまっているのも、もしかしたら病棟のナースだったのか、相談窓口のない病院だったのかまでは、把握しておりません。

**田城部会長**：今後のためにどこの病院かということと、区内の病院か区外の病院は区別してご報告いただければ幸いです。

それから、こういうかかりつけ医・在宅療養相談窓口というのは、豊島区でもやっていますが、ソーシャルワーカーがメインで行っています。ソーシャルワーカーは東京都に報告するというのもあって、区をまたいだ横の連携が

あるんですが、文京区では他の区の窓口との連携や、お互いに訪問し合うことはありますか。

**名取部会員：**特に連携を持っている区というのはありません。

**田城部会長：**名取部会員、ありがとうございました。

その他ご質問ありますでしょうか。ないようでしたら、次の議事（２）他職種ネットワークMCSの利用状況について、事務局よりご報告お願いいたします。

**宮部地域包括ケア推進担当課長：**<資料第2号の説明>

**田城部会長：**ありがとうございます。

この件について、ご質問等ございますか。文京区医師会のほうから何かコメントはございますか。

**石川部会員：**私自身もネットワーク参加はしているんですけども、治療の実績が実はあまりないというところで、少し差が出てきているのかなという印象があります。

**田城部会長：**ありがとうございました。

MCSは栃木県と豊島区が先進的であり、埼玉県では県庁が支援しているそうです。

なお、豊島区の在宅医療推進協議会の際に、ICT部会でMCSの一部有料化が話題になりましたが、宮部課長はそのことを把握されていますか。

**宮部地域包括ケア推進担当課長：**一部有料化については10月に文京区医師会主催でMCSの研修会を実施していただき、。そこで、MCSの会社の方に来ていただいて、有料部分と無料部分と、どのように使い勝手が違うのかとか、その辺のことをご案内をしていただく段取りになっておりまして、私も詳細までは今のところ存じておりません。

**田城部会長：**MCSの特徴は、無料でできるという触れ込みだったんですけど、一部有料化して、徐々にこういうお金が広がっていくように思います。

また、都立大塚病院は豊島区と文京区の境にありますが、大塚病院もMCSに入っておりますので、文京区と豊島区で、相互乗り入れのようなこともできるかと思います。

それから、教えていただきたいのですが、資料第2号の別紙1の2ページ目に、病院の施設数が25と記載されていますが、文京区に病院が25もあったのか

など疑問に思ったのですが、いかがでしょうか。

**宮部地域包括ケア推進担当課長：**数字がすぐには出てこないんですが、住所が文京区の件数となっていますので、恐らく数は合っているとは思いますが。

**田城部会長：**ユーザー数はまた別に151名とありますから、書き方によってはもしかしたら重複しているのかもしれないので、今じゃなくてもこれは確認をお願いします。

**宮部地域包括ケア推進担当課長：**病院の数字につきましては、確認をさせていただければと思います。

**田城部会長：**その辺はきちんともう一度裏を取るという形をしていただければと思います。

ZOOMで参加している方で、このMCSの対応をなさっている方はいらっしゃいますか。

**田城部会長：**新井部会員をお願いします。

**新井部会員：**薬剤師会のグループをMCSにつくっていただいたんですけども、増えていないのが現状ですので、少し増やしていきたいなと思っているところでございます。

また、今のところ、在宅勤務をしていないので、ほとんど連絡がないような状態で、やはり在宅をすると頻繁に連絡するような形になります。

**田城部会長：**ありがとうございます。

次に久保部会員、よろしくをお願いします。

**久保部会員：**久保です。この表からだ、ユーザー数が増えていることは分かるんですが、実際に投稿している方の人数は読み取れないと思うので、投稿の数は増えているけど、特定の人たちだけがやっているのか、あるいは全体的にみんなが活用しているかが分からないなと思いました。以上です。

**田城部会長：**ありがとうございます。

多分先行しているであろう豊島区でも、使っている方は使っているけど、使っていない方も半分以上いるという状況です。若手の先生と仲のいい訪問介護士や介護福祉士たちのグループはよく使っているので、昔ながらのそれこそファクスとか電話を使っている方と分かれていくとは思いますが。ただ、いずれ時間の流れで徐々に増えていくのかなというところですけども、日本全国どこ

も同じような実態ではないかと思っています。

石垣部会員、お願いします。

**石垣部会員：**石垣です。私もMCSは使用しておりますが、実は文京区内では使用していません。私の場合は、豊島区の患者については豊島区の先生たちと連携し、それから墨田区の患者については墨田区の事業者の方々と連携しています。どうしてそのようになっているかを考えますと、MCSを積極的に仕掛けてくれるキーパーソンがいる場合には進んでいくという実態がありまして、何かそういうような仕掛けづくりが必要かなというふうに考えています。以上です。

**田城部会長：**石垣部会員、ありがとうございます。

今おっしゃられたとおり、誰かそういうエンジンとなって引っ張っている方がいるかないかということで違って来るかとは思いますがね。

石垣部会員は何のデバイスを使っていますか。

**石垣部会員：**私の場合は全て使い分けして、いつもはスマホを持っていますけれども、PCを使う場合もあります。画像が上げられるものですから、非常に重宝しておりまして、画像を見るためには大きい画面のデバイスを使っているというふうにしております。

**田城部会長：**ありがとうございます。

先ほど区によってはタブレットやスマホ等の専用機を基金を使って調達して、それを貸し出すということをやっています。特に介護系の施設はなかなか経済力も乏しいということもあり、そういうのを使っているようです。

では、黒川部会員、新宿区はどうですか。

**黒川部会員：**私は9月から今の立場になったばかりで、新宿区の会議にまだ出ておりませんので、また情報が入りましたら、ご報告させていただきます。

**田城部会長：**JCHO東京新宿メディカルセンターの医師が個人的に入っていることはありますか。

**黒川部会員：**先日、開業医の先生にご挨拶行った際にk i n t o n eというシステムで、それはやらないかみたいな話はいただいたんですが、まだ運用はしていない状況ですね。

**田城部会長：**新宿区はk i n t o n eを使っているだけですね。



ありがとうございます。その他、何かありますか。

**宮部地域包括ケア推進担当課長：**先ほどの病院の数字ですが、今、保健所のほうに確認しましたら、20床以上の病院というのは、区内には9ということでした。MC Sの登録のときに、もしかしたら種別をそこまで厳格にやっていないくて、病院というカテゴリーで登録されている診療所の方とかがもしかしたらいらっしやるのかもしれない。

**田城部会長：**分かりました。確かに25もなかったなと思いました。多分何々病院何々科というので、別々に登録しているのを重複して数えているんだろーと思います。この数は明々白々の数字なので、できればどこかで修正されたほうがいいのかなとは思っています。

ほかにご質問はないでしょうか。

では、議事（3）知って安心「退院までの準備ガイドブック」の見直しについて、事務局より報告をお願いします。

**宮部地域包括ケア推進担当課長：**<資料第3号の説明>

**田城部会長：**ありがとうございます。

まず、東京医科歯科大学病院の西部会員、何かコメントがありましたらよろしくをお願いします。

**西部会員：**西でございます。先ほどご提示いただきました3点の項目についての見直し案は、全てそのままで進めていただければよいのかなと思っております。ぜひ現場で活用できるように、あとはこちら内部のほうで周知をして、活用方法についてさらに検討していきたいと思っております。以上でございます。

**田城部会長：**ありがとうございます。

続きまして、順天堂大学医学部附属病院順天堂医院の宮本委員、お願いいたします。

**宮本部会員：**宮本と申します。よろしくをお願いします。

3点につきましては特に異議はございませんが、このACPという言葉はそのままACPという言葉で掲載するということではよろしいでしょうか、それとも何かもう少し言葉を換えて載せるということなのではないでしょうか。この点だけお伺いしたいと思います。

**宮部地域包括ケア推進担当課長：**ACPにつきましては、一般の方にも分かりや

すいように、言葉も工夫しながら冊子のほうには載せていくというような考えで、そのままACPという言葉を使っただけでという説明は考えてございません。

**宮本部会員：**その言葉をそのまま使うのでなければ、分かりやすく書いていただければ、特に私どものほうからは異議ございません。よろしく願いいたします。

**田城部会長：**ありがとうございます。

ACP以外は、例えば人生会議を使う予定でしたか、宮部課長。

**宮部地域包括ケア推進担当課長：**今ちょうど冊子ですと20ページがそれに該当するコメント欄になっておりますが、そこには一切説明が書かれておりませんので、少しそういう人生会議という言葉も出しながら、その言葉の意味とかを含めまして、一般の方にも分かりやすいような表現にしていきたいと思っております。

**田城部会長：**ありがとうございます。次に東京大学医学部附属病院の鈴木部会員、お願いいたします。

**鈴木部会員：**東大病院の鈴木です。ご提案の内容を確認させていただきまして、その方向でということで、特に私のほうから意見はございません。以上です。

**田城部会長：**ありがとうございます。

続きまして、がん・感染症センター都立駒込病院の片野部会員、お願いします。

**片野部会員：**よろしくお願いします。うちの病院も、特に3点の内容については、ACPのところを分かりやすい言葉でということであれば、異議はありません。以上です。

**田城部会長：**ありがとうございます。

続きまして、東京医科歯科大学の摂食嚥下リハビリテーション外来の中根部会員、何かございますか。

**中根部会員：**中根と申します。私も今ありました内容で特に意見はありません。

**田城部会長：**ありがとうございます。安部部会員、いかがでしょうか。

**安部部会員：**私のほうからも特に意見等はございません。

**田城部会長：**ありがとうございます。

退院に限定してしまうと、外来の患者さんがイメージしにくいとか、こういうご意見はどちらかという病院の送り出す側ではなくて、受け取る側のほうでのご意見かと思います。

森岡部会員、いかがでしょうか。

**森岡部会員：**中身自体はそんなにはないのですが、ただ、退院される方や、これからサービスをお受けになられる方は、高齢者あんしん相談センター等で色々な資料を頂いて、重複するものがあったりすると、何を見ていいのかわからなくなってしまふのがあるのではないかなと思います。そのため、できるだけそういったお渡しする資料は、統一されたほうがいいのかなって思いました。これ自体がどうこうということではないんですけども。以上です。

**田城部会長：**ありがとうございます。

勇美記念在宅医療助成勇美記念財団でも、様々な冊子を作っていますので、似たようなものが幾つもあるし、区ごとに作っていたり、それらが入り乱れる可能性はありますね。

それでは、高齢者あんしん相談センター大塚の小川原部会員、いかがでしょうか。

**小川原部会員：**先ほど、森岡部会員からお話ありましたけれども、高齢者あんしん相談センターにも資料が多くあります。その中で、退院時や、病院に通院している中で、不安に感じていることが何なのかを、このガイドブックの中に書き込んでおいていただいて、お持ちいただくと、こちらからの確かな資料をご提供できるかなと思うので、ぜひ有効に活用していただければと思います。以上です。

**田城部会長：**ありがとうございます。足達部会員からどうでしょうか。

**足達部会員：**これに関しては、今ご提案いただいているような内容でよろしいかなと思います。

**田城部会長：**では、岩井部会員、お願いします。

**岩井部会員：**岩井です。タイトルについてですが、タイトル自体は、こちらの在宅医療介護に向けてということでもいいのかもしれないですけども、実際の今の冊子を見ますと、やはり退院というところに結構焦点を絞っていて、外来の患者さんに向けてという印象ではないなと感じました。退院に絞るのであれ

ば、それはそれでよろしいのかなというふうに感じました。以上です。

**田城部会長**：貴重なご意見、ありがとうございます。

では、飯塚部会員、お願いします。

**飯塚部会員**：私も、タイトルについてというところでは、先ほど森岡委員もお話をされていらしたように、資料が重なるという部分から考えますと、退院に絞った冊子にしていくというのも一案ではないかとは思いますが。以上です。

**田城部会長**：ありがとうございます。続きまして、井関部会員はいかがでしょう。

**井関部会員**：井関です。介護サービスの種類で考えたんですが、在宅サービスの中に、最初に依頼があると思われる福祉用具や、住宅改修のことが載っていると、なお一層いいのかなと思いました。まず、そこから始まることが大変多いかなと実感しておりますので、その辺をご検討いただけたらなと思いました。

**田城部会長**：ありがとうございます。名取部会員からはどうですか。

**名取部会員**：もし、こういう冊子をお手元にいただいた方が、この中のこのことについて分からないんだけどというような形で相談をしていただけると、非常にこちらとしては相手の方のご希望するものが分かりやすいと思います。ただ、退院の方、入院している方に配るものだけでも、退院までの準備ガイドブックという名前ではなくするということはどうなのかなと思います。

**田城部会長**：これは、文京区役所でも配布していませんでしたか。入院中の患者さんにだけ渡すのでしたか。

区によっては、いろんな相談窓口にも、5冊とか10冊とか、区民の方が自由に取っていきってというようなやり方を取っているかと思います。

**宮部地域包括ケア推進課長**：冊子の一番後ろに主に置いている場所がありまして、高齢者あんしん相談センターにも置いていますけども、こちらの病院さんに基本的に置いており、あと訪問看護ステーションにも置いているという状況であります。

**田城部会長**：ありがとうございます。この病院につきましては、4つの大学病院、駒込病院も、JCHO東京新宿メディカルセンターもそうですが、全国から患者が集まる場所なので、文京区の入院患者自体はそんなに多くなかった気がするのですが、そういう点では、なかなか、大学病院の皆様もこれだけ配っている

というわけにはいかないんだろうなと思います。

石垣部会員、いかがですか。

**石垣部会員：**ありがとうございます。この内容で気がついたところがございます。私自身が神経難病を扱っていることで、いろいろ寄与度の高い重症の患者を結構診ているんですね。そういった中で、病院の機能の中で、レスパイト機能紹介していただいて、後方支援病院の先生方にぜひお助けいただきたいなというふうに思いました。

それから、もう一つは、確かに病院に配布するというところがあるんですが、日本在宅医療連合学会といたしましては、在宅医療を特別な医療ではなくて普通の医療ということで広げていきたいというふうに考えておきまして、場合によっては全戸配布ということもやっていただいたら在宅医療の啓蒙に役立つと考えました。以上です。

**田城部会長：**ありがとうございました。

それでは、三師会の先生方、いかがですか。

**藤田部会員：**文京区歯科医師会の藤田と申します。タイトルについて、見直し案の「在宅医療・介護に向けての」という文言ですが、もし、在宅を強調したいのであれば、少し文言を変えて、「在宅での医療・介護」でもいいかと思えます。

それから、ACPについては、人生会議と言われてはいますが、区民にとってはすごく分かりにくい言葉なので、理解されるような言葉を考えてほしいです。

それと、訂正できれば、13ページ真ん中に、歯科に関する相談窓口があるんですけど、右側の地域包括ケア歯科相談窓口には正式名称として文京区がつくので、下の「在宅医療と歯科訪問検診の受付の地域包括ケア歯科相談窓口を」の前に、文京区をつけていただきたいです。

あと、気になっていることは9ページの在宅医療が支える専門のスタッフについてです。この歯科医師のところでは「歯科治療、口腔ケアなどを行います」となっていますが、やはり予防が先にやるので「口腔ケア、歯科治療などを行います」に変えていただけたらなと思います。以上です。

**田城部会長：**貴重な意見ありがとうございます。

では、渡邊部会員、いかがでしょうか。

**渡邊部会員：**ACPについて、こういうことに関与していらっしゃる家族の方等はすごく勉強されているので、とっても詳しい方もいる反面、分からないところもあるので、言葉の使い方のところをできるだけ、初めて見た人でも分かるような文章を使っていただくととてもいいかなとは思っております。以上です。

**田城部会長：**ありがとうございました。

石川部会員、いかがでしょうか。お願いいたします。

**石川部会員：**どうしても専門家というか、私たちの目線で作られているように感じるので、正直、字も多いですし、一般の方が見てどのくらい理解できるのかというのは不安なところはあります。

あと、情報の配置の仕方のせいか、全体の流れみたいなのにつながりが薄い感じがします。もし変更するんだったら、全体的に流れが見えるような冊子がいいかなと思っています。

**田城部会長：**どうもありがとうございました。

では、文京区薬剤師会の新井部会員、いかがでしょうか。

**新井部会員：**特にACPという言葉だけが問題で、あとは薬剤師会としては問題ないかと思います。この冊子については持ってきたときにご相談を受けるぐらいしかないと思いますので、特に異存はございません。

**田城部会長：**新井部会員、ありがとうございます。

それでは、議事（４）新たなテーマについて事務局よりご報告、それから、区の現状と将来構想についてご説明をお願いいたします。

**宮部地域包括ケア推進担当課長：**<資料第４号の説明>

**田城部会長：**ありがとうございます。今の事務局からのご説明についていかがでしょうか。何かこの時点でご質問がございますか。

石垣部会員、東京大学高齢社会総合研究機構についてご存じのことありますでしょうか。

**石垣部会員：**そうですね、東京大学の飯島先生のところでは、フレイル対策を指示して、在宅医療のリース部分をしっかり支えていこうということを進めていらっしゃるというふうに理解しておりますけれども、その入り口から出口までを含めて、総合的に体制づくりしていくことが将来高齢化の部分で対応をして

いく重要なキーポイントになるじゃないかなと考えております。

**田城部会長**：ありがとうございます。

ここで、自由闊達な議論をいただければと思いますけれども、いきなりこれを見て意見というのなかなか難しいと思います。参考資料5と参考資料6に調査表がありまして、よろしければ、事務局からご説明いただけますか。

**宮部地域包括ケア推進担当課長**：こちらの調査表につきましては、本日、議論で審議し切れなかった部分もあった場合にご用意させていただいたものでございます。各委員が所属する関係者の皆様にもご意見をいただくなどしていただきまして、調査表1のほうには次回の検討テーマについての何か参考になるようなことをご記入いただければと思います。本日のご意見と、こちらの調査表に書かれたことを踏まえまして、部会長と事務局で相談の上、次のテーマを決めさせていただきたいというふうに思っているところでございます。

参考資料6でございますけれども、こちらはコロナの関係ということですが、今後の参考のため、新型コロナウイルスの感染症で困ったことや、今後の課題についてご記入をお願いできたらというふうに思っております。

参考資料5、参考資料6のほうは、いずれもお忙しいところ恐縮でございますが、11月25日の金曜日までに事務局のほうにご提出いただきますと幸いです。よろしく願いいたします。

**田城部会長**：ありがとうございます。

先ほどお話ししましたように、新型コロナウイルスのパンデミックの対応が、23区は大体うまくいっているほうだとは思いますが。保健所も区役所も大変だったと思いますし、三師会の皆さんも大変だったと思いますけれども、うまくいっていると思います。地域包括ケアシステムがうまくいっているかどうかの指標になると聞いておりますので、この新型コロナウイルス感染症対応について、どんな経験をしたかとか、こういう点がよかった悪かったという反省点、それから、今後こうあるべきというようなご意見を広く賜りますと、それがまさしく文京区の地域包括ケアシステムそのものに対する今後の在り方とか、現在の課題を浮き彫りにすると思いましたので貴重な経験を書いていただきますと、来年度以降に生かせるかと思えます。

東京大学附属病院の鈴木委員は、この東京大学高齢社会総合研究機構のこと

について何かご存じでしょうか。

**鈴木部会員**：私のほうは病院なので、そちらに関しての情報は得ておりません。  
以上です。

**田城部会長**：ありがとうございます。

それでは、参考資料7についてはご説明いただきましたでしょうか。

**宮部地域包括ケア推進担当課長**：参考資料7でございますけども、こちら、区内の在宅医療を行っております祐ホームクリニック千石院長の矢島俊先生にご講演いただきまして、10月1日の午後にシビックセンター26階スカイホールで開催をしたものでございます。

概要としましては、在宅医療とは何かとか、病院医のイメージと在宅医のイメージ、在宅医が大切にしていることについてなど、幅広い講演をいただきました。50名定員のところ46名の方にご参加いただきまして、盛況に実施をしたところでございます。以上でございます。

**田城部会長**：ありがとうございます。

この件に関してご質問はございますか。

それでは、次第3「その他」ですけれども、部会員の皆様にご報告や情報提供等がもしありましたら、お願いいたします。

石垣部会員は特に何かございませんか。

**石垣部会員**：ありがとうございます。実は、明日あさつと、京都で連合学会の地域フォーラムという会を催す予定になっているんですね。京都の面白いところは、医療・介護だけではなくて、いわゆる一般の産業、特にお寺が多いので、仏教界、宗教界、そういった方々との連携を図るような取組をしております、まちを挙げての取組になっております。これから生活に立脚していくのが在宅医療でありますので、そういったところを補足していくことも重要ななというように考えております。

**田城部会長**：ありがとうございます。

それでは、よろしいでしょうか。皆様からなければ、最後、次回の検討部会の日程について、宮部課長からよろしくお願いいたします。

**宮部地域包括ケア推進担当課長**：本日はお忙しい中、熱心にご議論いただきましてありがとうございます。退院支援ガイドブックについては、追加のご意見



等もいただきましたので、本日いただいたことも含めまして、改定の作業に入っていきたいと思えます。こちらの新ガイドブックは来年発行になりますけども、本年度いただいたご意見を含めまして、事務局のほうでまた再度整理をさせていただきたいというふうに思っております。

次回は、来年2月もしくは3月頃、年度末近くになってしまっていて恐縮ですが、その辺に開催をしたいというふうに思っております。日程につきましては、部会長と相談の上、早めにご連絡を差し上げたいというふうに思っております。

また、今回の要点記録につきましては、区のホームページに公開をさせていただきます。要点記録の確認等で皆様にご協力いただきますが、ご協力のほど、よろしくお願いたします。以上でございます。

**田城部会長：** それでは、本日は、貴重な意見ありがとうございました。これで閉会といたします。